

シニア・ストラテジスト  
山本 雅文

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

## 爆買いから爆発へ

### <ポイント>

- ◆先週金曜は、中国財新製造業 PMI の予想外の悪化と中国株価の続落を受けて、世界景気減速懸念が強まり、ドル/円は米株安と米利回り低下を受けて一時 122 円割れへ大きく下落した。
- ◆世界景気減速懸念の中で原油価格が下落したことから、カナダドルなど産油国通貨が下落したが、豪ドルの下落は小幅で、NZドルは反発するなど、コモディティ通貨はまちまちの動きとなった。
- ◆ユーロはユーロ圏 PMI の予想比上振れもあって避難通貨と捉えられ、米利回り低下の中で対ドルを中心に続伸、一時 1.1389ドルと 1.14ドル台に迫った。ユーロ/円も一時 139 円丁度へ上昇した。
- ◆本日は、英国が休場で重要イベントが殆どない中、中国株価やコモディティ価格を睨んだ展開となりそうだ。22 日には山東省でも爆発事故があり実体や心理面への影響も懸念される。週末に中国当局が景気刺激策を発表するとの期待もあったが期待外れに終わる中、世界的株安と米利回りの低下を通じて軟調が続きそうだ。ドル/円の目先の下値目途は 7 月 8 日に付けた安値である 120.41 円となる。
- ◆豪ドルも中国株価や商品市況の軟調を眺め下落し易い。米ドル/円と豪ドル/米ドルが同時に下落する局面であれば、米ドル/円よりも豪ドル/円の方が下落が大きくなりそうだ。
- ◆他方、ユーロ/ドルは中国景気減速懸念、世界的株安、米利上げ期待の後退の中で上昇し易い。

### 昨日までの世界:リスクオフ環境の中でユーロ高・円高

ドル/円は、中国 8 月財新製造業 PMI 速報の予想外の悪化(前月 47.8、市場予想 48.2、実績 47.1)と中国株価の続落を受けて、アジア時間に 123 円割れへ軟化した。欧州時間から NY 時間にかけては、原油価格(WTI)が一時 40 ドル割れ、欧米株価も下落する中で、米中長期債利回りが低下したことから続落、一時 121.82 円と 122 円割れへ前日対比で 1%超の大幅下落となった。中国景気減速懸念が高まり、欧米株価も悪影響を受け、原油安がインフレ率も抑制する見込みの中で、米国の 9 月利上げ開始期待も後退している。

ユーロ/ドルは、ドイツ製造業を中心に景況感が改善、ユーロ圏 8 月総合 PMI 速報は 54.1 と予想外の小幅改善となったこともあって、避難通貨としての位置づけが強まり、米利回り低下とドル安の中で対ドルを中心に続伸、1.12ドル半ばから一時 1.1389ドルと 1.14ドル台に迫った。ユーロ/円も、対ドルで円よりもユーロの上昇の方が大きかったことから、一時 139 円丁度へ上昇した。

豪ドル/米ドルは、中国財新製造業 PMI の予想外の悪化と中国株価の続落を受けて、アジア時間に 0.73 ドル割れへ下落した。その NY 時間にかけては、銅価格などコモディティ価格が堅調に推移したためか、対その他通貨での米ドル安もあって 0.73 ドル半ばへ反発したが、原油価格が下落しカナダドル

など産油国通貨が下落すると下落に転じ、0.73ドル台前半で引けている。

豪ドル/円は、アジア時間に 90 円台半ばから 90 円割れへ下落、一旦下落が一服したが NY 時間に下落が再開し 89.21 円の安値を付け、7 月 9 日につけた年初来安値(89.16 円)にほぼ並んだ。

### きょうの高慢な偏見:爆買いから爆発へ

[今週の見通しはこちら\(8月21日付FX戦略ウィークリー\)](#)

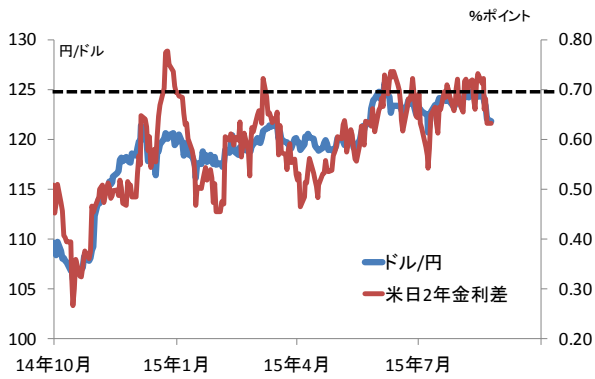
[今週の経済指標カレンダーはこちら](#)

ドル/円は、英国が休場で重要イベントが殆どないことから、中国株価やコモディティ価格を睨んだ展開となりそうだ。中国では 12 日の天津に続き 22 日には山東省でも爆発事故があり、実体や心理面への影響も懸念される。週末に中国当局が景気刺激策や株価対策を発表するとの期待もあったが、既に以前話があった年金基金の株式投資承認に留まるなど期待外れに終わっている。ドル/円は自律調整による一時的反発はあるにせよ、世界的株安と米利回りの低下を通じて軟調が続くそう。本日早朝に一時 121.53 円へ続落しており、目先の下値目途は 7 月 8 日の 120.41 円へ目線が下がってきている。

ユーロ/ドルは、中国景気減速懸念、世界的株安、米利上げ期待の後退の中で上昇し易い。目先の上値目途は今年 5 月 15 日につけた高値である 1.1467 ドルとなる。

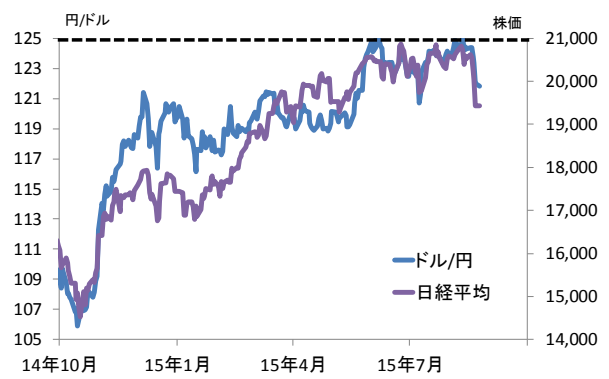
豪ドル/米ドルは、中国株価や商品市況の軟調を眺め下落し易く、本日早朝に 0.7285 ドルへ再び下落、8 月 12 日につけた年初来安値である 0.7216 ドル割れが焦点となる。米ドル/円と豪ドル/米ドルが同時に下落する局面であれば、米ドル/円よりも豪ドル/円の方が下落が大きくなりそう。豪ドル/円は本日早朝に 88.63 円へ下落し年初来安値を更新、下値目処は 2014 年安値(88.24 円)および 2013 年中安値(86.41 円)となる。

米日2年金利差とドル/円



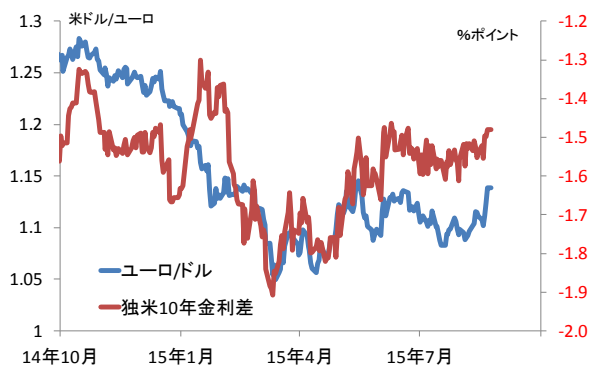
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

ドル/円と日経平均株価



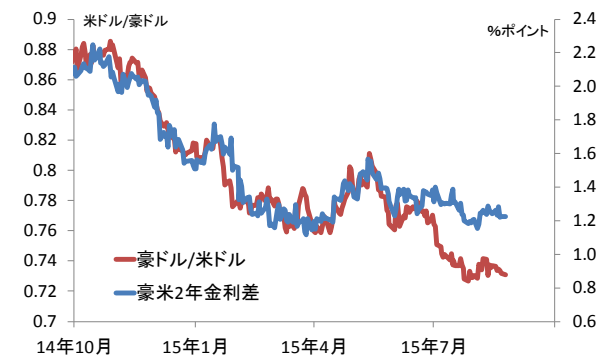
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

独米10年金利差とユーロ/ドル



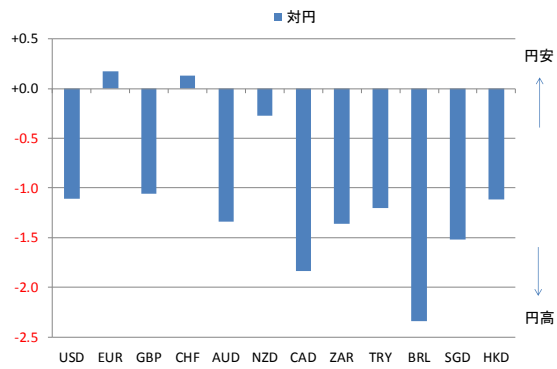
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

豪ドル/米ドル相場と豪米2年金利差



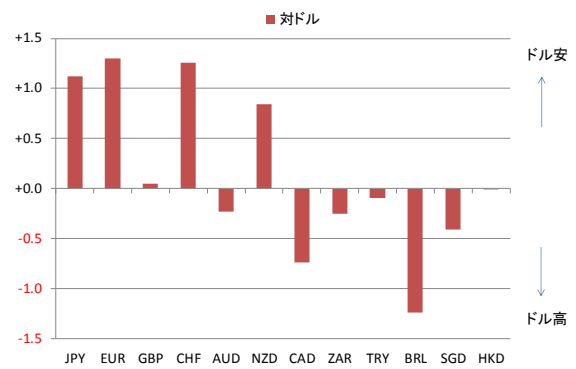
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対円相場(前日比%)



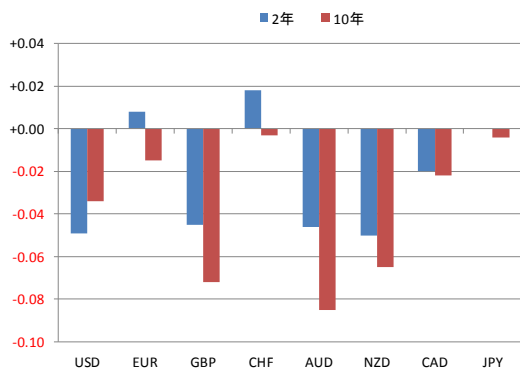
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要通貨の対ドル相場(前日比%)



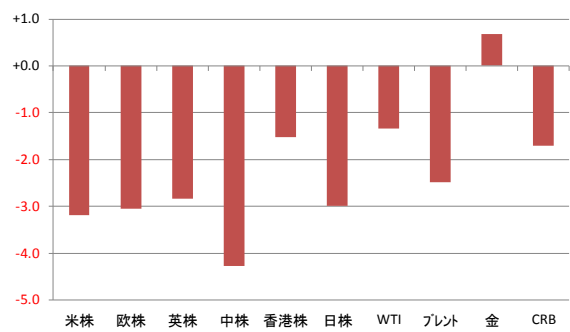
(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要国の中長期債利回り(前日差%ポイント)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

主要株価・商品価格(前日比%)



(出所) Thomson Reutersのデータを基にマネックス証券作成

**利益相反に関する開示事項**

マネックス証券株式会社は、契約に基づき、オリジナルレポートの提供を継続的に行うことに対する対価を契約先証券会社より包括的に得ておりますが、本レポートに対して個別に対価を得ているものではありません。レポート対象企業の選定はマネックス証券が独自の判断に基づき行っているものであり、契約先証券会社を含む第三者からの指定は一切受けておりません。レポート執筆者、並びにマネックス証券と本レポートの対象会社との間には、利益相反の関係はありません。

- ・当社は、本レポートの内容につき、その正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。
- ・記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・過去の実績や予想・意見は、将来の結果を保証するものではありません。
- ・提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。
- ・当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号  
加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会